

CAP就学前子どもワークショップ

＊スケジュール：約20分+トークタイム毎回約30分×3日間（15人前後で実施）
＊スタッフ：2～3人のCAPスペシャリスト
＊対象：3～7歳。〔3歳～5歳の場合は3日間、6・7歳の場合は2日間で実施できる〕

1日目

子どものけんり
安心・自信・自由
（写真とロールプレイを使って）

子ども対子ども（スコップを
とられる）のロールプレイと
子どもができること
・「いや」という練習

トークタイム

2日目

知らない人対子どもの
人形劇（連れ去り）

知らない人に話しかけられ
たら・・・
特別なさげび声
もしも、つかまえられたら・・・

トークタイム

3日目

子ども対子ども（きょうだい）
いやなさわられ方のロールプレイ

知り合いのおとな対子どもの
ロールプレイ（いやなさわられ方）

先生ロールプレイ

トークタイム

※トークタイム：子どもワークショップ直後に子どもがCAPスタッフと個別に復習・練習する時間。（約30分）

楽しく3日間かけて学ぶなかで、子どもたちが漠然と抱えている不安が減少していきます。

- 幼児期の子どもの集中力にあわせて、子どもワークショップ（参加体験型学習）は、1日約20分。
- 楽しみながら学べるバラエティに富んだアプローチ
 - ・子ども同士がお互いに学び合う力を促進する
 - ・人形劇や歌、「いや！」と一人ずつ言う練習
 - ・ロールプレイ（役割劇）への参加
 - ・気分転換のアクティビティ
- 幼児期の子どもの問題解決力を高める3日間
 - ・考えや気持ちを表現する言葉の獲得を援助する
 - ・わかりやすく、現実的で、かつすぐに使える行動の選択肢を提供する
 - ・子ども同士の助け合い（ピアサポート）を勧める
 - ・信頼できるおとなに相談することを勧める



子どもワークショップだけでなく、園、ご家庭、地域での日常生活で、CAPで学び、考えたことを使ってみる体験が繰り返しできることで、CAPのメッセージが子どもたちに根付き、自分自身を守り、お友だちを守る道具になっていきます。



CHECK!

子どもワークショップのロールプレイは、子どもの日常で起きるかもしれない様々な危機的状況を設定し、スモールステップで進んでいきます。必ず、「けんり」を守ることができるロールプレイで終わり、子どもたちが「できることがある！」と常に前向きな気持ちになれるように工夫されています。

3日間の最後には、担任の先生に参加していただき、子どもが援助を求めたとき（相談）に応える信頼できるおとなのロールプレイを実施します。子どもが力を借りるためにおとなに話したときに、何が起きるかを心に描く機会となります。おとなが子どもを気にかけていて、いつでもサポートしてくれるという明確なメッセージを子どもに伝えます。

注意：CAPプログラムのすべての権限はICAP(International Center For Assault Prevention)が持っています。養成講座を受け、グループで活動するCAPスペシャリスト以外の人が実施したり、まねたりすることはできません。

幼児期の子どもの安心・安全のための 予防教育 Approach

鍵を握るのはおとなの共通認識と協力体制

CAP就学前プログラムは、「教職員ワークショップ」「おとなワークショップ（保護者・市民対象）」、そして「子どもワークショップ」の3つで構成されています。

幼児期の子どもの日常生活を安心・安全なものにするには、教職員、保護者・地域住民の皆さんの共通認識と協力体制が必要です。そのため、子どもワークショップを実施する場合には、まずは子どものセーフティネットを強化するため、教職員、さらに保護者・地域住民の皆さんというおとなへのプログラム提供からスタートします。

CAPプログラムを通じて、園・家庭・地域という三者が一体となり、子どもと言葉を共有し、日常生活のなかで幼児期の子どもの安心・自信・自由を守り、育んでいくことをめざします。



子どもにとくべつに大切な3つのけんり



おとなワークショップの様子
ご要望を伺い、子どもの安心・安全を守るために必要な知識やスキルを提供し、できることを一緒に考えます。

CAP就学前プログラムへの参加は、安心を広げていきます

CAPプログラムに参加した後、実際にCAPで学んだことを、日常生活の安心・自信・自由に活かすことのできたお話です。暴力の予防に主体的に学ぶ機会が重要であることを教えてください。

子どもワークショップの後、トークタイムで友だちに
いじめられていることを話してくれた子が、その後
「いじめるのはやめて」と自分で言うことができた。
（先生からの後日談）

子どもが、1日目のワークショップに参加していな
かった先生の胸のところに手をあてて、「せんせいにも
あんしん・じしん・じゆうのけんりがあるんだよ」と
伝えてくれた。先生は「そうだね。〇〇ちゃんにも、
安心・自信・自由のけんりがあるんだよ」と応えて
いた。（先生からの後日談）

4歳 いつもおもちゃをとるおともだちに、
「とるのはやめて」っていえたよ。

おとなワークショップに参加して学んだのは、おとな
が子どもを保護するだけではダメだということ。求めら
れるのは子どもと一緒に考える姿勢だと気づいた。子ど
もが自分は大切！と思えることが、被害者はもちろん、
加害者を生み出さないことにつながると思う。（保護者）

5歳 きゃっふでべんきょうして、
すこしじしんがでてきた。
しらないひととはなすときは、
ふたりがてをのばしても
とどかないくらいはなれよ。

去年、私も子どももCAPワークショップを受けました。
CAPを受けた後、子どもがおばあちゃんに話ができてい
たことを知ったんです。おかあさん、おとうさんは忙し
そうだし・・・と思って、おばあちゃんに電話して話を
聞いてもらおう！と思ったみたいで。CAPを理解し、話
せる人を探した子どもの行動がとてうれしかったです。
（2年続けておとなワークに参加した保護者）

4歳 けんりがあつてわかって
うれしかったよ。
あんしん！じしん！じゆう！